

# 近代都市貧困地域における公衆衛生と産業政策のコンフリクト

## ——ヨーク市衛生局調査とロウントリー貧困調査——

早稲田大学 武田尚子

### 1 目的と方法

イングランド中部の商業都市ヨークは、1899~1901年にB.S.ロウントリーが貧困調査を実施したことでよく知られている。ヨーク市の貧困地域として、ロウントリーはハンゲイト地区、ウォルムゲイト地区に言及している。労働者階級世帯への戸別訪問調査が実施されたが、ロウントリーの調査票は現存しておらず、ロウントリー関係のアーカイブからこれらのスラム2地区についてわかることは報告書(Poverty: a study of town life)に記載された範囲にとどまる。しかし、ロウントリーの貧困調査から6年後、ヨーク市衛生局がハンゲイト地区で詳細な衛生調査を実施し、ヨーク市アーカイブに所蔵されていたデータが2018年9月から公開されて研究目的で利用可能になった。また、同アーカイブには1830年代以降の都市政策や住民に関わる詳細な諸資料が所蔵されており、これらを併用すると、スラム地区として理解することにとどまらぬ深い射程で、当時の都市社会構造、空間構造におけるハンゲイト地区、ウォルムゲイト地区の位置づけが明確になる。なぜその当時、貧困層が集積する地域になっていたのかを考察することが可能で、ロウントリーの貧困調査の意義を再考することにつながる。

このような関心に基づき、本報告ではヨーク市アーカイブを活用し、ハンゲイト地区、ウォルムゲイト地区について、公衆衛生基盤の近代化、産業基盤の近代化という2つの視点から、都市社会構造、空間構造における両地区の位置づけについて考察する。

### 2 公衆衛生基盤の近代化とヨークの貧困地域

ハンゲイト、ウォルムゲイトはヨーク市内を流れるフォス川という小河川の両岸に位置する。ハンゲイトは標高が低く、洪水が多いヨーク市になかでも頻繁に浸水する地区であった。当時の下水道設備は排水が悪いうえ、汚水をフォス川に流していたので、浸水するハンゲイト、ウォルムゲイトの衛生状態は悪かった。ヨーク市ではコレラ流行を契機に19世紀後半には下水道の改善が進んだが、腸チフスの流行は止まず、綿密な公衆衛生調査が実施されるようになっていった。ハンゲイト、ウォルムゲイトが社会問題が集積している地区として特定されるようになったが、地形的要因もあり、洪水に起因する不衛生状態は放置されたままだった。この時期に実施されたのがロウントリーの貧困調査である。

### 3 産業基盤の近代化とヨークの貧困地域

ハンゲイトの浸水問題を解決するにはフォス川の水深を改善して、排水を促す工事が必要だったが、ハンゲイトでそのような対策は進まなかった。ハンゲイトにはヨーク市を代表する製粉工場があり、フォス川を運河として利用し、原料を運びこんでおり、水深を保つ必要があったからである。つまり、有力企業が物流の産業基盤として利用していることが優先された。近代都市で都市内の小河川が工業用水・用地として利用されることが優先され、公衆衛生対策と一致せず、貧困地域対策は放置されていたのである。